

この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no. 49

吉祥寺東町
二丁目付近

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、昨年の夏にそよ風を背に受けながら描いたものである。

話は異なるが、最近ちょっとした発見で、ひそかに感激したことがあった。それは、あるクリニックで見たカレンダーの曜日(月火水木金土日)が、「東西南北」と同様に、文字がほとんどすべて左右対称であることに気付いたことである。

ところで、文字ではないが、文章の中にも面白い文がある。それは前後いづれから読んでも同じに読める回文である。代表例に「竹屋が焼けた」があるが、他にも「磨かぬ鏡」や「私負けましたわ」などがある。最近知った「まさか猪のいかさま」には思わず笑ってしまった。私がかれまでで最高だと思った回文は、東大生の作といわれる「数学解くガウス」である。ちなみに、私の名前「大須賀一雄」も回文的な名前だと思っているのだが。

(絵と文：大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おおくあすお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。